

emotion

気になるあの子にうまく話しかけられなかった、緊張しすぎて人前でうまく発表できなかった、そんな経験はありますか？このような経験を経ずして大きくなった人のほうが少ないのではないのでしょうか。何か失敗するのを恐れたり、気恥ずかしいと感じたりすることから萎縮してしまふと思います。例に漏れず自分も緊張シーという奴です。一步踏み出す勇気がなくて、後から後悔することも多々あります。特に不慣れな環境では尚更緊張してしまいます。以下ではこのことに関した、この夏の私の経験を書いていこうと思います。少しお付き合いください。

この 8・9 月にイタリア一周 **backpacking** 旅行をしてきました。これは私にとっての昔からの夢でした。33 日間で南はシチリア島から北はトリノまで、余すところなく奔走しました。キラキラ光る地中海に、世界史の授業でみた美術品の数々。半年間ずっとバイトしてお金を貯めてきた甲斐がありました。そんなイタリア旅行は一生の思い出です。

しかし、当然のことながら、楽しい思い出ばかりではありません。旅に出た最初の 1 週間ぐらいは言葉が通じないモゾモゾ感に苛まれていました。イタリアなので現地の人はもちろんイタリア語で四六時中話しています。イタリアはめっちゃ好きなのに、なぜか大学ではフランス語選択です。イタリア語なんて「ボンジョ〜ルノ」「ボ〜ノ」くらいしか話せません。宿では世界中から様々な人が集まってきました。共通言語として使われるのは英語です。中高大と 7 年間も英語を勉強してきたのに、話すのはどうも苦手です。中学 2 年生ぐらいの文法事項しか使えません。加えてリスニング能力は皆無なので、ゆっくり話してもらわないと全く聞き取れません。そのような状態であったため、最初の頃は周りの人たち（もちろん全員外国人）と積極的に話すのを躊躇っていました。うまくコミュニケーションがとれないのを恐れ、恥ずかしく思っていたのです。

そんなコンプレックスをうちに抱えたまま、フィレンツェの宿に入った時です。ある 1 人のデンマーク人の青年が話しかけてきたのは。彼も同じく学生で、ひとり旅の寂しさから話し相手を欲していたのかもしれませんが。私と目が合うと、彼は寄って来て話しかけてくれました。彼が村上春樹の小説が好きであったり、映画が共通の趣味だったりと言が弾みました（もちろん僕の英語はカタコトですが、）。そんなこんなで彼とはすっかり意気投合しました。そして彼に自分の悩みを打ち明けました。

「全然上手に英語を話せないんだよね、」
「そんなこと気にしなくてもいいじゃない？僕も日本語話せないし。」
「でも、コミュニケーションをとるのが難しくなっちゃうよね。それが本当に嫌なんだ。」
「確かに言語の壁はあるよ。でも、僕らは同じ人間で、同じ感情を持つてるんだよ。その感情が言語の壁をうち破るんだ。『フォレスト・ガンプ』も『ノルウェーの森』も面白かったら？」

その時の彼の言葉「感情 (emotion) が言語の壁 (language barrier) をうち破る (break down)」は靴の底についたガムみたいに今でも頭から離れません。それだけ印象深い言葉でした。実際彼と話をするのもかなり苦労しました。映画や本の内容、登場する人たちを知っていたから、何とか話をすることができたのだと思います。でも、彼との会話が楽しかった一番の要因は、映画や本について抱いた感想を共有することができたからなのだと、その言葉で気付かされました。言葉が不自由でも、自分の持っている感情をぶつけられたら、相手とコミュニケーションをとれるのです。そのことに旅の最初の頃に気づけてよかったです。そこから、外国人に話しかけるのを躊躇しなくなりました。

このことは言語の壁以外にも言えることなのではないでしょうか？何かどデカイ壁にぶつかって萎縮したり躊躇ったりするような時でも、自分の考えや情熱を持って相手と向き合えたら、案外楽に解決するかもしれません。大事なのは自分の感情を正しく伝えること。これが、僕が旅で得た一番のお土産です。